

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
大学・高専機能強化支援事業

令和7年度現地調査 令和7年10月23日

事業概要等説明資料

武庫川女子大学

学長

高橋 享子

環境共生学部

学部長

青野 光子

環境共生学科

学科長

來海 徹太郎

事務局 管財課

担当課長

跡部 誠



<基本情報>

改組予定年度：令和7年度

改組内容：学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）

設置等組織名：環境共生学部環境共生学科

入学定員：【R7新設】120名

所在地：兵庫県西宮市

<新設学部のコンセプト>

自然と地球が抱える問題に、立ち向かう女性になる！

身近な里山・里海から地球全体まで、自然界は今さまざまな環境問題を抱えています。その解決に様々な側面から挑める、勇気と実力を備えた環境系研究・技術者を育成します。

<教育内容>

冒険、発見、学び、発信

周辺の里山・里海や環境保全施設を巡るフィールドワークを低学年から実施。学生自身が発見した課題にグループワークで挑み、社会と連携しながら解決をめざします。また、環境保全や自然共生システムに関する専門科目を充実させ、実践力と研究力の双方を養っていきます。



<申請要件>【特色】

②十分な学生確保の見通しを備えた計画

→本学既設の工学分野を有する学部・学科の入学志願状況を踏まえ、**工学分野への女子学生の進学ニーズ**を把握。今後、保護者、高校・予備校関係者、高校生を対象にアンケート調査を実施するとともに新学部構想を周知すべく各種メディアにおいて広報活動を展開。

③産業界を含む社会のニーズ等を踏まえた学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成、入学者選抜の実施等に係る計画

→**フィールドワーク**や企業等と連携した課題解決型の**社会連携プロジェクト科目**を1年次から順次展開。

→一般選抜や学校推薦型選抜のほか、確かな学力と多様な資質を持った受験生を受け入れる**多面的評価入試**（**MUKOJO未来教育総合型選抜**）を実施する。

④特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画

→自然環境や環境整備保全関連施設の観察を通して独自に問題点や課題を設定して学習設計を行う。

→新設する「**プロジェクトルーム**」での共同作業や研究室を巡る**ラボローテーション**を通じて実践力を養う。

⑤実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画

→**バイオマス発電**や**新素材開発経験**、野生生物の生態調査といった領域において企業等で実務経験のある教員を複数配置する。

⑦社会において具体的な人材ニーズが現に存在、又は、十分な見通し

→今後、成長が期待される環境分野で専門性を備えた課題解決力で社会貢献できる人材の育成を目指す。設置構想について地域の酒造メーカー等と協議。

⑪寄附金、研究費等の外部資金獲得に係る計画

→**科研費の採択件数拡大**のため、補助金申請に精通した専任教員が講師を務める「**KAKEN塾**」を学内で開講。

→その他、若手・女性研究者の支援や**組織横断型研究プロジェクト**を形成し、大型研究費の獲得を目指す。

⑫自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画

→**奈良女子大学と連携**して工学分野についての単位互換や授業科目の共同開設、共同研究や共同FD、教員や学生の交流を推進。

→多様な入試制度の実施と学内施設（保育ルーム、国際寮）の整備

【特色】 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム選定事業を活用した女子生徒向けの探求心の養成と理系進路選択促進の取組を実施。

さらなる連携先の強化・拡大



1. 学生確保の状況（多様な入学者確保のための実施体制など）

原因

- ・ 受験生に対する具体的な情報提供が遅く、また不足していた
- ・ 環境分野の学問のわかりにくさ
- ・ 高校訪問の時間不足
- ・ 出口（就職先等）のわかりにくさ

その他

近年の少子化の加速、女子大離れ等

対策

- 入学定員の削減 120名→80名
- 環境共生学部活性化委員会の設置
- 募集対策（R7年度前期に対応を集中）
左記の原因を踏まえた
 - ・ パンフレット作成
 - ・ ホームページの充実
 - ・ 全教員（16名）による高校訪問
 - ・ 参加型オープンキャンパスの実施
 - ・ Instagram等による発信



1. 学生確保の状況（多様な入学者確保のための実施体制など）

出口（就職先等）のわかりにくさ 対策

入学者選抜

多面的入試（総合型選抜入試）の重視
環境や生物に強い興味→MUKOJO未来教育総合型選抜入試



2. 教員確保の状況

実務経験のある教員についての採用基準の有無

①実績

- ・ 丹波篠山市役所で調査官
- ・ 民間企業（アルガルバイオ）

②採用基準の有無

- ・ 文書、規程等には実務経験のある教員に限っての採用基準は無。

※教員採用の際の応募書類、面接等での話から、本学部の教育・研究内容に照らし、採用を決定。学生たちに「実務経験」の立場からの指導を依頼。

FDの実施状況など

学部内FD

- ・ 5月 勉強会

教員の研究紹介、学生への配慮等

- ・ 前期：フィールド・環境施設実習への全教員の同行
- ・ 後期：教員の研究紹介を行う授業（初期演習Ⅱ）への参加



令和5年度選定 支援1 武庫川女子大学

令和6年度 理系女子学生 確保に向けた取り組み



地球に優しくって
何をすればいい?
一緒に考えませんか?

特別講演: 国分太一氏
(株式会社D&D 副社長)

武庫川女子大学 環境共生学部 開設
記念シンポジウム

開催日時: 2024年7月21日(日) 12時~16時 場所: 公江記念講堂

会場: 武庫川女子大学 公江記念講堂

地球がよくなる明日をつくるー「環境共生」という約束ー

参加無料
お申し込みは
こちら



武庫川女子大学の環境共生学部 2025年4月開設
文理の垣根越え 環境と社会技術のスペシャリストを育成

学部の概要

ENVIRONMENT

女子総合大学だからこぼれ出る、充実した学びの環境

豊富な自然環境の中で自然体験
フィールドワーク

実践的な社会課題プロジェクトと実務的
プロジェクト

様々な環境分野にわたる
教員陣



連携先の環境分類

自然に親和性のある取り組みから、産業連携に結びつけて専門分野を伸ばす

 <p>環境保全系</p> <p>都市生活圏への負荷を減らし、自然環境を保全・創出。</p> <p>担当部署: 環境共生学部環境共生系</p> <p>連携先: 兵庫県立環境研究センター</p> <p>担当部署: 環境共生系</p>	 <p>環境教育系</p> <p>次世代の環境への関心と理解を醸成し、人と自然の調和共生を促す。</p> <p>担当部署: 環境共生学部環境共生系</p> <p>連携先: 兵庫県立環境研究センター</p> <p>担当部署: 環境共生系</p>	 <p>環境技術系</p> <p>最新技術や最新の地球環境について、産官学連携を推進する。</p> <p>担当部署: 環境共生学部環境共生系</p> <p>連携先: 兵庫県立環境研究センター</p> <p>担当部署: 環境共生系</p>
--	--	---

地域連携

国立環境研究所 琵琶湖分室
ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター
グッドホールディングス株式会社
JT生命誌研究館
兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター
阪神園芸株式会社
西宮市 (環境局など)
モンベル



3. 外部機関との連携状況（具体的な実施内容・取組内容など）

○連携事業（実績）

国立環境研究所琵琶湖分室、ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
グッドホールディングス株式会社については、連携協力のもと、この前期に
学外実習（フィールド・環境施設実習）を実施。

モンベル社とは、4月に先方から講師を招き安全講習会実施。

○連携事業（継続・検討中）

・ JT生命誌研究館 > フィールド・環境施設実習先の候補

・ 兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター

> 5月に先方と打合せし、学生の協力できる活動について検討中

・ 阪神園芸株式会社 > 具体的な連携の取り組みについて検討継続中

・ 西宮市（環境局など）

> 4月に先方と打合せし、学生の協力できる活動について検討中

○学外FD（奈良女子大学との連携）

年内を目途に奈良女子大学との共同FD会を予定

学院HPに発表予定



4. 施設・設備の整備状況等（情報環境の整備状況など）

P6棟（プロジェクト棟）

9月8日竣工式

社会連携プロジェクトI（1年後期 必修科目）での利用開始



2025年1年後期社会連携プロジェクトI（担当：天沼/副担当：青野）
気候変動による影響を地図化してみよう（農林水産業分野・健康分野）

気候変動による気温上昇や渇水
Questions:
◆身近な地域では気候変動の影響があるか？

2025社会連携プロジェクトI 事前共有
3. 未知の藻類で特許を出願しよう

プロジェクト概要
様々な環境課題の中で、微生物が活躍できる分野は何か、CO₂吸収・代替タンパク質・燃料生産などの代表的ニーズはもちろん、まだ誰も気付いていない面白い題材があるか知れませんが、藻類のバイオ燃料開発特許センター先行事後調査・環境技術社会実用方法としての特許実用・先行「実用・調査採集・培養」どんな目標設定したいか？実用化目標、ながらあれ

2025 社会連携プロジェクトI **有用な微生物を探そう！**

微生物の代謝を模倣した分解反応系を作りた〜い
有害化合物の分解の様子を調べたい
高速液体クロマトグラフィーで分解の様子を調べる

2025社会連携プロジェクトI
PJ_1 雨を測って科学する

主担当 藍川昌秀 副担当 村田成範

- 「科学する」とは？
 - あるテーマについて、サイエンスの基礎・理論に基づき、論理的に思考・考察し、目的(結論)を導き出すこと
- 本実習での「雨を測って科学する」の目的
 - 「雨」を題材(テーマ)に、論理的思考・考察のための基礎・理論を学び、論理的思考の手法を体験(経験)すること(その先に、自ら考えることができる技術者、研究者、ヒトになることが究極の目的)
 - ◆基礎(高校化学・高校物理)を随時復習・確認
 - ◆「考え方」(論理的思考の手法)を学び体験

知識・答えを覚えることが目的ではない
=修得した知識を基盤にその応用・適用を体験・経験する
=プロセス(論理的思考の方法)を学ぶことが目的

2025 社会連携プロジェクトI
8. 農業遺産を活用した持続可能なツーリズムのデザイン 担当：清水、来海、三輪

農業遺産とは？社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ 農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、将来に受け継がれるべき重要な農林水産業システムを認定する制度です(世界農業遺産はFAOが、日本農業遺産は農林水産省が認定)

農業遺産地域は、持続可能な環境共生社会のモデル地域ともいえます
農林水産業の根幹 畜料や資源の生産・供給 地域の経済活性化 地域の持続的な発展の確保

霧を作ってヒートアイランドを冷却する
FOG STABILIZATION 【ねらい】人口が密集しヒートアイランド化している都市部において、局所的に霧や雲を発生し、太陽光の反射や蒸発による気温低下によって冷却を行う対策には必要があると考えられる。霧の

1年後期 社会連携プロジェクトI
PJ6「私たちの手で名産の森を育てよう」

担当：大谷、平岡

武庫川から甲子園浜までの生態系の数値化

武庫川から甲子園浜まで水で繋がっています。川から海にかけては淡水と海水が混ざり合う地点であり、多様な環境が形成されます。淡水から海水までフィールド実習で行った水質調査や生物調査を通して、フィールドワークの手法や生態系の評価方法を学びます。

武庫川 池湾域 泥を数値化？ 採水器 採泥器 水質計



【事前質問に対する回答】

質問 1（収容定員未充足の原因と対策）→割愛（前出）

質問 3（西宮市、奈良女子大学との連携）→割愛（前出）

質問 2（地域連携、出前授業、ワークショップ等における留意点、成果や課題）

※大学の女性活躍総合研究所の取り組みとなります。

- ・女性の理工系ロールモデルの選定
- ・中学生がターゲット（高校生では文理の選択の方向性が決まっている）
- ・公立学校への出前授業は、男子も含まれ、女子の理系進路選択支援を明確に打ち出しにくい。
→学校（先方）とのキャリア教育と連携しながら、その一部として組み込んでもらう等の工夫が必要
- ・すぐには成果がでない。
- ・しかし、長年の取り組みの中で、先方においても連携の中心になる教員（学年主任、主幹教諭クラス）が増えてきている。



【事前質問に対する回答】 出前授業

mukogawa-u.ac.jp/~iwcareer/mirai/activitieslist/index.html

活動報告

News&Topics

[すべての予告をみる](#) ▶ [すべての報告をみる](#) ▶



上甲子園キャンパスで中学生のためのオープンキャンパスを実施しました

2025/3/22 開催

Connect



西宮市立浜脇中学校で出前授業を実施しました

2025/2/28 開催

Change



西宮市立浜甲子園中学校で出前授業を実施しました

2025/2/27 開催

Chan



その他参考となる事項

○イベントの実施 見学会や体験プログラムなど

9月：附属中高向けの見学会

10月：Girls Meet STEM



**プロジェクト棟
完成見学会**

武庫川女子大学附属中高生 特別イベント

9/20 (SAT)
13:30-15:00

未来立体的プロジェクト棟を誰よりも早く見学しよう！
※保護者の方もご参加可能

環境共生学部の学びは、1年次から63年次まで続く「社会連携プロジェクト」をベースに、実践、探究で得た知識を身に付け、課題解決力を高める立体的なプロセスが特徴です。プロジェクト棟は、その学びを広くプロジェクトのための場、一歩先がプロジェクトをスタートする場になります。今秋の秋学期に竣工予定です。

会場：武庫川女子大学 浜甲子園キャンパス
環境共生学部プロジェクト棟

見学会の概要

- ・コンセプト説明と棟内ツアー
- ・模擬授業
「フェノッってなんなの？光で変わるナノの世界」 藤原紀子 准教授
「科学で解くマイクロプラスチック問題」 田島七瀬 教授
- ・相談コーナー

武庫川女子大学 〒663-8179 西宮市野洲七条東11-48
環境共生学部 <http://www.mukogawa-u.ac.jp/eng/>



Girls Meet STEM

女子中学生・高校生向けイベント

アクセサリ作りから学ぶ、環境の研究の面白さとは？ 10/18 (SAT)
～環境の未来を、わたしのデカラで。～ 13:30-15:30

「環境って大事そうだけど、私に何ができるんだろう？」
そんな疑問を持つ女子中学生・高校生のみなさんに向けて、未来につながる体験イベントを開催します。環境共生学の幅広い分野を知ること、「自分は何に興味がある？」「将来どんなことをしてみたい？」といった進路のヒントが見つかるはずです。

イベントの概要

- ・学生・先生とのトークイベント (45分)
- ・研究室での体験プログラム (60分)

体験プログラム1：顕微鏡で微細な葉の観察
葉の色素でオリジナルのアクセサリ作製

体験プログラム2：偏光顕微鏡や偏光板を使って光のふしぎを体験

会場：武庫川女子大学 浜甲子園キャンパス
環境共生学部プロジェクト棟

武庫川女子大学 〒663-8179 西宮市野洲七条東11-48
環境共生学部 <http://www.mukogawa-u.ac.jp/eng/>



その他参考となる事項

○外部資金獲得情報の発信

- ・ 矢野 義明教授が科研費 基盤研究(C)に採択されました。
課題名: 可視光による生細胞脂質ドメイン構造の可逆的制御法の開発
研究期間: 2025-04-01 – 2029-03-31
- ・ 田島 右副教授の研究グループがJST研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 産学共同ステージ I (育成フェーズ) に採択されました。
課題名: 高性能フォトリフラクティブ液晶の開発とその小型レーザー
超音波非接触計測装研究期間: 2025-10-1 – 2028-3-31
- ・ 澤田 隼佑講師が科研費 研究活動スタート支援に採択されました。
課題名: コンビナトリアル化学に基づいたPFAS検出用蛍光剤の開発
研究期間: 2025-07-31 – 2027-03-31
- ・ 中西亜実助手の研究提案が学生団体等による環境学習チャレンジ事業 (公益財団法人 ひょうご環境創造協会) に採択されました。
課題名: 保育所ビオトープの活動からの教材研究
研究期間: 2025-09-01 – 2026-02-28

